

事務局：(財)奈良県緑化推進協会内

〒630-8301 奈良市高畑町 1116-6

TEL 0742-24-0200 FAX 0742-24-2110

メールアドレス: gvnc@nifty.com

ホームページ: <http://homepage2.nifty.com/gvnc>

●主な活動の記録 (10月～12月)

10月2日(日) 里山の整備と森の恵みを楽しむ会

奈良市地球温暖化対策地域協議会(通称 ならエコ・エコの和-NEW)の環境体験講座の一環として、NEW・NPO 法人宙塾・当クラブの共催で、奈良阪町の元明天皇陵隣接の県有の平城宮跡特別保存地区で開催。一般公募による4組の親子づれを含め30名近くが参加。当クラブよりは10名。

まずイベントの温暖化に絡めての趣旨並びに活動内容とその意義を説明後、親子づれを中心にグループに別れ、里山整備としてノコギリで竹林整備作業を当クラブ員の指導の下行った。伐った一部を竹細工用として玉切って広場へ運び出した。竹笛づくりに挑戦、鳴りづらいものはチョット手を加え早速音色を楽しんだ。次いで各自で、花瓶貯金箱等アイデアを生かし、つぎつぎと作品を仕上げていった。この後はクリ拾い。竹で作った串で、イガに気をつけながら取り出しドンドン集めて一部試食用に茹で、残りは持帰った。昼には、予め女性達で準備願ったクリよりうまい十三里と言われる焼き上がったばかりの芋を頬張った。

説明を聴く



竹の伐採



竹細工



クリひろい



10月9日(日) 「春日奥山古事の森」整備作業

平成16年に植栽以来、毎年下草刈り作業をしてきたが、木々の順調な生育状態から一昨年で一応一区切りとして終えていた。カヤをはじめ雑草がかなり大ききはびこり、又この29日(土)に古事の森事業啓発事業としてのイベントが開催されることもあり、9名で主にヒノキ林の下草刈りを実施。合わせて遊歩道の整備を行った。

10月22日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

天候があやしく参加者の出足が鈍かったが、初参加のワタミ(株)から3名と、久しぶりに参加された大伸社からの10名を加え約30名が集まった。午前中は、11月26日に全国育樹祭協賛としてFV連主催で開催予定の全国育樹祭記念景観林造成事業のイベント、「野鳥の森」で景観林造成を行うため草刈り・竹の伐採等準備を進めた。午後は、間伐材の利活用としてのベンチづくり、器具類の整備、苗木の準備等を手分けして実施。

10月30日(日) 間伐研修 大保町

一般を含め、6名が参加。講師として県農林部OB孝井氏を招き、35～40年生ヒノキ・スギの民有林にて間伐研修を実施。肥大成長の見込みが乏しいものを伐るにあたっての判断基準として、根のはりかたが偏っているものや、樹冠比率が30%をきるものから間伐すること。これをもとに選木し、伐倒方向を決め、チルホールを使つての実技。ロープワーク、そしてチルホールと滑車を設置のための位置決めをし、伐倒にかかったが、樹高が20メートル近くあるため、架かり木処理に手間取った。樹冠は4メートルにて比率2割強と選木は正しかった。柱材と造材用

として 4メートルと 3メートルに玉切りし、後日搬出予定。あいにく屋前から雨脚が強まり、研修を屋前に終了。

講師説明

ロープワーク

チルホール

伐倒開始—方向ヨシ



11月6日(日) エコフェスタ 2011in まほろば クラフト指導

檀原市地球温暖化対策地域協議会「エコライフかしはら」主催で、環境を守る活動をしている各種団体が、檀原文化会館前広場でいろいろな催し物を行った。県中部農林振興事務所のブースで竹笛とモクマルづくりを行い、当クラブ員 4 名が指導にあたった。竹笛は、里山に進出の竹・ササを伐ったものを使い、竹筒中央近くに穴をあけた本体と、吹き口用のササ筒を用意、本体の穴と吹き出し口との微妙な位置関係で笛がなるかならないかとなり、苦労していた。モクマルづくりは、リョウブ(雑木)などの輪切りを材料とし、出来上がり見本を参考に、くま・あんばんまん等それぞれ思い思いの作品を作っていた。保護者とともに立ち寄った子どもたちは、竹笛、モクマルづくりにそれぞれ 100 名ほどとたいへん盛況だった。

11月5～6日 第11回紀伊半島三県森林ボランティア交流大会

当番県である和歌山県かつらぎ町で開催され、当県からの 5 団体 19 名を含め 60 名近くが参加。開会式、オリエンテーションと翌日の植樹に備えての事前説明に続いて、今回の基調講演として、自然配植技術協会長である高田講師による”自然配植”についての講義。夕食は解禁されたばかりのしし肉を使った鍋を囲みながらの交流。食事が終わってからもあちこちで意見交換が夜遅くまで繰り広げられた。

二日目は場所を高野町の町民の森に移し、県別に分かれ前日の講義に基づいた実習となる植樹。まず 10 種の苗木を見ながら配置を皆で相談して決め、高田講師に判定を仰ぎ植栽。特徴ある植え方として、3 本巣植えを学んだ。同じ樹種を 3 本固め植えし、競い合わせ成長させ、最悪 2 本が競争に負けても、一本を大きく元気に育てることを目指すもの。植栽後再度講師のチェックが入り、一部植え直しもあった。

昼食後、目下再建中の金剛峯寺中門用材の貯木場で棟梁から完成時の概要とその用材—ほとんどが高野山から伐り出され、古いものでは樹齢 350 年—についての説明を受けた。最後に近くの駐車場で閉会式・記念撮影・引継式を行う頃には、何とか持ちこたえてきた雨がしびれを切らし降り始めた。

基調講演

植栽作業

植栽を終えて

雨中の引継ぎ式



11月12日(土) 第35回全国育樹祭記念「苗畑整備育樹祭」矢田山遊びの森

緑の公募事業の一環として実施。放棄棚田跡地を整備し「ふるさとの森」としての再生事業を昨年より始めており、今後の同地で行う植林祭に使う苗づくりのための苗畑を整備し、拾ったコナラやクヌギのドングリから苗を育てたり、林内で実生の稚樹を掘り取り畑で育苗するもの。これと平行して、定例活動では、景観林造成活動の仕上げとして

刈った草の巻き落とし、隣接の竹林の伐採を行い、午後からはベンチづくり。

集めたドングリ

稚樹の採集

苗畑整備

苗木植え



11月20日(日) 第35回全国育樹祭

皇太子殿下をお迎えし、県内外から約3,000人が参集し、平城宮跡で、「古都からのあふれる緑未来へ」をテーマに、(社)国土緑化推進機構・奈良県の主催で開催された。参加者は同地に着くと、まず育樹作業として、周囲の木々に施肥をし、大極殿前の会場へ。

殿下による昭和天皇が昭和56年の第32回全国植樹祭でお手植えになられた「イチイガシ」のお手入れ・おことばの後、各種功労者(団体・個人)の表彰、みどりの贈呈、緑の少年団活動発表、大会宣言に続いて各種イベントが繰り広げられた。当クラブは、奈良県緑化等功労者として、森林整備部門での表彰を受けた。尚、同祭に際しては、奈良県森林ボランティア連絡協議会から約50名が、前日の準備を含めサポーターングスタッフとして参加。

11月26日(土) 全国育樹祭記念「景観林造成事業」＝緑の募金公募事業＝

矢田山遊びの森で、5年前より放棄棚田跡地を整備し、「野鳥の森」として植林をしてきた木々が元気に育ってきているが、中には枯れたり、雑木が蔓延ったり、一度は伐った竹も復活し景観的に見苦しくなってきたため、これらを整備し景観的にバランスのとれた森になるよう整備・補植作業を奈良県森林ボランティア連絡協議会主催で実施。一般参加を含む約30名が参加。午前中はヤマザクラ・イロハモミジ40本を数名ずつのグループに分かれ、一本ずつ丁寧に植えていき、間伐材や竹で作った支柱を立て、子供達は樹名板に記名しぶら下げた。昼食では、女性を中心に準備されたおにぎりや豚汁で腹を満たした。午後は植栽の点検、公園内のゴミ収集を兼ねたパトロールと子供達にはモクマルくん等のクラフトの指導を手分けして行った。

植え込み

支柱を立てる

樹名板に記入

一休みーグミを味わう



12月1日(木) 県立筒井寮 クラフト指導

平成19年以来、同寮で毎学期一度を目途に行っているクラフト、今回は小学生10名ばかりの寮生が放課後集まり、当クラブ員6名の指導のもと雑木林の除伐で出たリョウブなどの輪切りを使ってのモクマルくんやアンパンマンづくりなどに取り組んだ。限られた材料をもとに、つぎつぎと作り上げていくかれらの発想には、いつものことながら感心させられている。今回は珍しく丸を四角に切りミニチュアの机や椅子を作っていたのが目新しかった。

12月4日(日) 「潤いの森」保育・補植作業

昨年、NPO法人瀬戸内オリーブ基金の助成を受け、日笠町民有地の茶畑跡を元気な里山に再生のため整備・植

栽をした「潤いの森」の保育・補植作業のため 6 名が参加。午前は下草刈りの後、カキ 2 本・クリ 3 本を、午後は雑木林皆伐跡地植栽地で、モミジ 2 本・ヤマザクラ 3 本の補植を行った。

12 月 10 日(土) 定例活動 総会

矢田山遊びの森に約 20 名が集まり、景観林造成事業の一環として、放棄棚田跡地並びにその周辺の整備を実施。草刈り、竹・枯損木の除伐等を行い、最後にクラフト用材料としてツルを採取し総会に備え作業は昼で切り上げた。委任状を含め 29 名が奈良市保健センター会議室に集まって、4 時より総会が開かれ、理事長挨拶・議長選出・議事記録係及びその署名人を選出し議事に入った。

- 第 1 号議案 平成 22 年度事業報告
- 第 2 号議案 平成 22 年度決算報告
- 第 3 号議案 平成 23 年度事業計画
- 第 4 号議案 平成 23 年度予算
- 第 5 号議案 役員(監事)改選 山本→川本

につき理事長より内容の説明の後、質疑を経ていずれも原案通り多数の拍手で承認。その他として、理事長より各活動への参加者の減少が見られることから、あらためて積極的な参加の呼びかけがあった。二三の質疑応答があって終了。この後近くに場所を移して久しぶりに忘年会を行った。冒頭、当クラブの前身であるグリーンボランティアならクラブを平成 9 年に創設以来、代表者として、クラブの基礎固めからその後の活動への展開・指導に永年に亘り尽力された石野氏が、本年 FV 連も含め全ての役職から退かれたので、感謝の印を理事長より贈呈。ついで乾杯、その後鍋を囲んで 2 時間あまり大いに歓談しお開きとなった。

12 月 17 日(土) 教育林整備活動 奈良北高校

先月に続き実施。ボランティアの同校生徒約 30 名、並びに先生・保護者 14 名が参加し当クラブ員 7 名が指導。3 班に分かれ作業開始にあたり、学校林の役割、森林作業の内容・手順等の説明を聞き、伐倒・枝払い・玉切りの上、棚積みし一連の作業をそれぞれが体験。休憩をはさみ、場所を弓道練習場横の駐車場に移し、森林環境学習の後、クラフト。ツルを編んでクリスマスリースをつくり、ヒノキの葉っぱ・松ぼっくり・南天等を使って飾りつけをした。予め準備をしておいた各種の木の押し葉をラミネートに挟み込み、ヒーターを通し菜も作成した。

準備体操

作業風景

森林環境学習



＝ 訃 報 ＝

上田喜郎理事長が、昨年 12 月 23 日不慮の事故で永眠されました。永年に亘り精力的に活動され、そのフットワークのよさで近年積極的に活動の幅を拡大されてきました。イベントの折々に振るわれた料理の腕に、何度となく皆が舌鼓を打ったことでしょう。ご冥福をお祈りいたします。